

熊本都市政策

Institute of Policy Research, Kumamoto City
Annual Report Special Issue of “The 2016 Kumamoto Earthquake”

熊本市都市政策研究所 年報
(平成28年熊本地震特集号)

vol.4

熊本市都市政策研究所
Institute of Policy Research, Kumamoto City

IPRK

刊行に寄せて

熊本市都市政策研究所長

農学博士

蓑茂 壽太郎



熊本市都市政策研究所年報「熊本都市政策」vol.4をお届けします。

平成28年4月14日と16日に連続して熊本を震度7の強震が襲った「平成28年熊本地震」により当研究所にも大きな影響がありました。建物には大きな被害はありませんでしたが、図書や資料、事務機器等の混乱は相当なものでした。当研究所は、市職員研究員と任期制研究員をメンバーとしていますが、市職員については避難所対応等の震災関連業務を優先することとなり、やむなく研究業務から離れることになりました。加えて任期制研究員の入れ替わりもあり、全メンバーがそろって研究活動を再開したのは地震発生から約1カ月後でした。

この大地震は多くの人的被害と物的被害をもたらしましたが、熊本市民の将来に大きな警鐘を与えることにもなりました。熊本市の市制施行は明治22(1889)年ですが、実はこの年にも大地震があったことをあらためて思い起こさせてくれたからです。127年前の「明治熊本地震」と今回の熊本地震の被害が非常に類似していたことを知り、すっかり忘れ去られた存在の過去の震災への振り返りが見られたということです。明治熊本地震に関する一冊の記録本に出会うことにもなりました。「熊本明治震災日記」がそれです。私たちは平成24年の研究所開設以来、創造的な都市政策を発想する源泉として地域認識と歴史認識に関する調査研究を進めてきていましたので、ごく自然な取り組みとして、この貴重な史料を、今を生きる、そして未来の人にも親しんでいただける形で、現代語訳をし、市民が手に取れる図書として出版することに取り掛かり、昨年12月にこの熊本都市政策の別冊『【現代語訳】熊本明治震災日記』として刊行することができました。

さて、本号は、平成の熊本地震に直面して、研究所のメンバーが調査し考究したことを中心に、今後の復興等の施策の展開で求められる研究の課題整理も狙い編集に取り掛かり、ようやくここにお届けすることができました。そこで「熊本地震特集号」としましたが、多様な研究成果の収録はもとより、外部の研究者からもご寄稿をいただきました。前述の明治熊本地震に関連して、熊本県立図書館の丸山伸治学芸調査課長には同館収蔵の『明治二十二年熊本縣大震始末』について論考いただき、熊本県立大学文学部の大島明秀准教授には、明治熊本地震を後世に語り継ぐために市民が考案した「数え歌」について寄稿いただきました。そして今回の熊本地震に係る緊急調査のため当研究所と協定を締結した(一財)公園財団・公園管理運営研究所の松本圭代研究員には、東京での熊本地震の新聞報道について、実態を調査分析いただき速報としての寄稿を得ました。

研究員報告は多方面に及び、地震の発災と被害状況の記録に始まり、地震記憶の継承、災害記録誌の編纂心得、今回の熊本地震における避難所形成のパターン分析、そして今後の大きな課題である住宅復興と多様な報告を掲載しています。また、多くの研究者に平成の熊本地震に関心を寄せていただき、研究対象として取り上げ、有益な研究成果の発信が今後求められることから、その便となるよう『平成28年熊本地震』研究のための参考資料100を一覧として掲載しました。すべてが熊本地震からの復興に向け役に立つなら望外の喜びであります。なお、研究所の活動状況をご理解いただくための関連資料もこれまで通り編纂しております。

熊本市都市政策研究所は、今後も開設当初の志である「どうしても必要な研究所」をモットーに、スタッフ一同心をひとつに邁進してまいりますので、皆様の一層のご助言、ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。

熊本都市政策 vol.4

Institute of Policy Research, Kumamoto City
Annual Report Special Issue of “The 2016 Kumamoto Earthquake”
熊本市都市政策研究所 年報（平成 28 年熊本地震特集号）

目 次

I 論 説

熊本地震と都市政策	3
所 長 蓑茂 壽太郎	

II 熊本地震関連研究報告

平成 28 年(2016 年)熊本地震の特徴と被害特性についての考察	15
副所長 植木 英貴	
研究員 山口 岳史	
平成 28 年熊本地震における避難所の形成パターン ～熊本市地域防災計画の改訂に向けた示唆	29
研究員 加藤 壮一郎	
過去の大震災における住宅復興に向けた施策の展開と課題の整理	43
研究員 中野 啓史	
記憶の継承と「記憶の風化」	55
研究員 田中 大二郎	
震災記録誌とは - 記録の歴史と現代の記録誌の諸事例	65
研究員 田中 大二郎	

III 特別寄稿

熊本県立図書館蔵の明治二十二年熊本地震資料	83
熊本県立図書館学芸調査課長 丸山 伸治	
数え歌に見る「明治二十二年熊本地震」の記憶	88
熊本県立大学文学部日本語日本文学科准教授 大島 明秀	
新聞五紙の東京版にみる熊本地震の報道	96
一般財団法人公園財団公園管理運営研究所開発研究部研究員 松本 圭代	

IV 「平成 28 年熊本地震」研究のための参考資料 1 0 0 111

V 講演記録

第 1 2 回講演会 「政策創造と人材育成」	119
講師 上野 眞也 氏 (熊本大学政策創造研究教育センター教授)	
第 1 3 回講演会 「縮小時代の都市政策」	134
講師 大西 隆 氏 (豊橋技術科学大学学長・日本学会会議会長)	
第 1 4 回講演会 「デザイン・イノベーションの時代」	145
講師 本間 康夫 氏 (崇城大学大学院芸術研究科長・芸術学部デザイン学科教授)	
第 1 5 回講演会 「地域継続と事前復興からの国土強靱化の発想 ～想定外の災害に備えるためには～」	153
講師 中林 一樹 氏 (明治大学政治経済学研究科・危機管理研究センター特任教授)	

VI 平成 27 年度の研究所活動記録

1 調査・政策研究に関する活動	169
(1) 研究フレーム	
① 熊本市域の地域認識、歴史認識の共有化に資する研究	
② 研究員研究	
③ 職員併任研究員研究	
(2) 研究報告会、勉強会等の開催	
① 研究報告会	
② 勉強会・説明会	
(3) 庁内各組織の政策立案等調査支援	
2 情報収集・発信に関する活動	172
(1) 年報の刊行	
(2) 『熊本都市形成史図集－戦後編－』の刊行	
(3) 研究所パンフレットの作成	
(4) 研究所ホームページの充実	
(5) ニュースレターの発行	
(6) ニュースメールの配信	
(7) 学会等への参加	
3 人材育成に関する活動	176
(1) 講演会、研修会の開催	
(2) 職員併任研究員制度	

VII 参考資料 183

- 1 組織
- 2 平成 28 年度 都市政策研究所パンフレット
- 3 ニュースレター

(『熊本都市政策』 vol.4 別冊)

【現代語訳】『熊本明治震災日記』 水島 貫之 著 (明治二十二年)

明治 22(1889)年 7 月 28 日午後 11 時 40 分頃に発生した明治熊本地震 (推定 : マグニチュード 6.3) における被害の状況をはじめ、行政の動きや市民の避難の様子を、白川新聞 (明治 7 年創刊) の創始者である水島貫之が詳細に記録した『熊本明治震災日記』の現代語訳版。

『熊本明治震災日記』とは

『熊本明治震災日記』は、白川新聞 (後の熊本新聞) の創始者で熊本県近代文化功労者である水島貫之 (みずしま かんし) によって、地震直後の明治 22 年 10 月に発行されている。

構成は、序・緒言のあと、地震発生日である明治 22 年 7 月 28 日から 8 月 31 日までの 35 日間にわたる日記が書かれ、そのあとに「震災日記逸事」として日を追った日記の中では触れることができなかった新聞記事の抜粋が収められ、最後に東京から赴いた地震学者・研究者が県庁等に寄せた学術的な報告資料が収録されている。

この日記では、地震の被害状況や県庁・市役所・警察署といった行政機関の地震への対応をはじめ、当時の人々が恐怖心から屋外で夜を明かしたことなど震災時の市民の動きやその後の余震による混乱、風説・流言で翻弄される市街の状況等が書かれ、その混乱が市民への情報提供によって収まっていく様子などが詳しく記されている。



